

日銀支店長が語る

経済よもやま話

第23回 水は生命線



日本銀行仙台支店長 岡山 和裕

色んなところに出かけていると、「ばったり偶然」ということがある。桜の時期に宮城県南部の一目千本桜に行ったら、偶然に知り合いに会ったり、さくらんぼの時期に山形県の道の駅に行ったら、これまた偶然に知り合いに会ったりした。

そうした偶然は、人だけでない。昨年「桜巡り」についてのエピソードを書いたが、秋田県のある桜の名所に行ったら、その近くに背景の山と一体化した「ため池」を見つけた。その看板を見ていると、そのため池は「ため池100選」に選ばれているとのこと。

私は様々な100選巡りをしているのだが、ため池100選は知らなかった！ 一度それを見つけてしまうと、またまた調べて行きたくなる（笑）。それからため池100選も、私の巡りレパートリーに入ったのだ。宮城県、山形県、岩手県にため池100選は9カ所もある（笑）。

いざ、回ってみると、色んなところにため池があることが分かった。例えば、①ラムサール条約に登録されており、水鳥の飛来地になっているため池。②歴史景観に優れ、市民の憩いの場として親しまれているため池。③築造に難航したので、人柱を立てた悲しい言い伝えが残るため池。④地元の篤志家が多額の寄付をしたことによってできたため池。⑤山形の「花笠踊り」が生まれたため池までであることが分かった。

ちなみに、ため池100選には、①農業の礎、②歴史・文化・伝統、③景観、④生物多様性、⑤地域とのかかわりのいずれかにおいて、特に秀でた特徴を有しているものが選定されている。

そうすると、さらに疑問が湧いた。ため池とダムの何が違うのだろう。調べてみると、水を堰き止める堤体の高さによって違うらしい。すなわち、堤体が15m以上のものをダム、15m未満のものをため池と言うらしい。また、日本には、何と16万カ所のため池があり、その7割程度が江戸時代以前に農業のために築造されたらしい。しか

も、当然のことだが、水は低い所に流れるので、水を利用する農地よりも高い場所に作る必要があるのだ。

そして、現代。治水機能や利水機能を果たしているのが、ダムである。宮城県、山形県、岩手県のダムの数を調べてみたところ、何と145カ所もあるのだ。これは回り切れない。このため、ダム湖100選というのがあるのを思い出して、数えてみたら9カ所。いずれも山間部にある（笑）。赴任地巡りをしながら、9カ所を制覇。

そうすると、①堤防がコンクリートのダムと岩石を多く使ったダムの違いがあること、②ダムカードがあること、③ダムをこよなく愛する「ダムラー」と呼ばれる方々がいらっしやること、④ダムの建設には多大な経費と労力がかかること、⑤建設の際には環境に様々な配慮がされていること、などが分かった。

こうした巡りを経ての感想。ため池については、農業が生きるための糧だった時代には特に、水は生命線。その生命線の水を、苦勞しながら工夫しながら作り上げて、そしてそれを利用してきた歴史。何とも奥深いではないか。そして、ダムについても、急峻な日本国土からすると、ダムが大きな役割を果たしている。

我々はおそらく大雨や渇水の時以外は、ため池やダムの恩恵について思いをはせることは少ないかもしれないが、先人の努力と苦勞を再認識した。

岡山 和裕氏 プロフィール

1969年（昭和44年）生まれ
兵庫県出身。本店15部署のうち8部署を経験したオールラウンダー。東日本大震災では、金融機構局で被災金融機関との連携役を担ったほか、熊本地震では決済機構局業務継続企画課長として現場を指揮。前橋支店長、業務局参事役等を経て、仙台支店長に就任